



たとえば、ここでは「センター方式」を取り入れています。正式には「認知症のためのケアマネジメントセンター方式」というのですが、認知症のご本人をよりよく理解し、その方について知るための道具の一つとして介護施設などで用いられています。ケアマネジャーを中心に、ご本人とご家族、介護の関係者が共通のシートを使ってお互いの思いやアイデアを出し合い、できることを深く探っていくんです。私は看護師をしているときにケアマネジャーの資格を第1期目で取得しました。2人3脚では、月1回このセンター方式の勉強会をスタッフと行い、各自発表してもらっています。

もちろん、私自身も学び続けています。私は、認知症に関わる人たちを中心とした「認知症のひとと家族の会」の役員をしているのですが、そこでのグループワークや講演活動、認知症に関する電話相談に応じるボランティア活動などを行っています。また、福祉施設の視察のためにデンマークを訪れたこともあります。

先日は、新たに立ち上げられた若年性認知症の集いに参加しました。そこでは、ご本人、ご家族などの当事者による体験発表がありました。一人の方は私との関わりもある方なのですが、鬱病と診断され、3年間も認知症との診断が下されなかったんです。その方は高校の先生だったので、うまく教鞭がふるえず、またきちんとした診断がされなかったことでその間とても苦しまりました。しかもその3年間で症状が進行してしまって……。進行具合は人によって異なるものですが、若年性認知症の恐ろしさを感じました。もう一人の方は、ご本人がお話されたのですが、勤務先の会社の上司が気づいて早期発見できたんです。それで適切な治療を受けることができたため、今でもボランティアをしたり、バイクに乗ることもできるそうです。

認知症において、早期発見、早期治療というのはすごく大事なことです。ですから私は講演をしたり、ブログを活用して訴えたりしています。一般の方にも認知症について学んでいただいて知識を持ってもらえれば、早く気づくこともできるし、自分たちが望む介護も受けやすくなるんです。

地域と繋がり、社会貢献できることが喜び
